

REAL LOGISTICS

**Being Group**

**2025年12月期  
決算説明資料**

株式会社ビーイングホールディングス  
(東証 スタンダード市場 9145)

2026年2月13日

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化等により、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新・改訂を行う義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

※端数の処理について、単位未満を切捨て、パーセントは小数点第一位未満を切捨てとしております。

- Summary
  - I ... 2025年12月期連結業績実績
  - II ... Topics
  - III... 2026年12月期連結業績予想
- Appendix
  - (会社概要、特長・強み)

## 2025年12月期 連結業績実績

- ・ 8期連続の増収増益 (業績開示しております2018年12月期以降)
- ・ 複数拠点開設及び移転に伴うイニシャルコスト増加により年度予想を下回る

営業収益	335.1億円 前期比 +11.0%	営業利益	23.0億円 前期比 +2.7%
経常利益	22.6億円 前期比 +0.3%	親会社株主に 帰属する 当期純利益	14.0億円 前期比 +2.0%
ROE	ROA	ROIC	
18.3% (-2.7pt.)	7.2% (-0.6pt.)	11.5% (-0.3pt.)	

※ ( ) 内 前期比増減



REAL LOGISTICS  
Being Group

I

**2025年12月期**

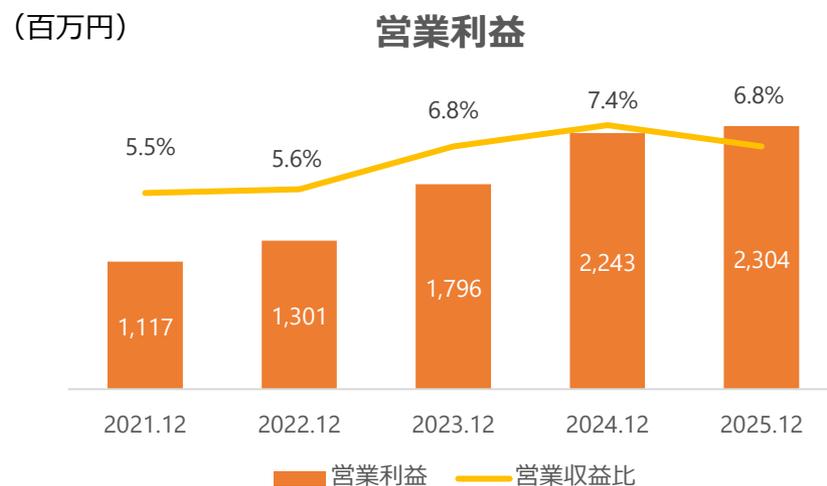
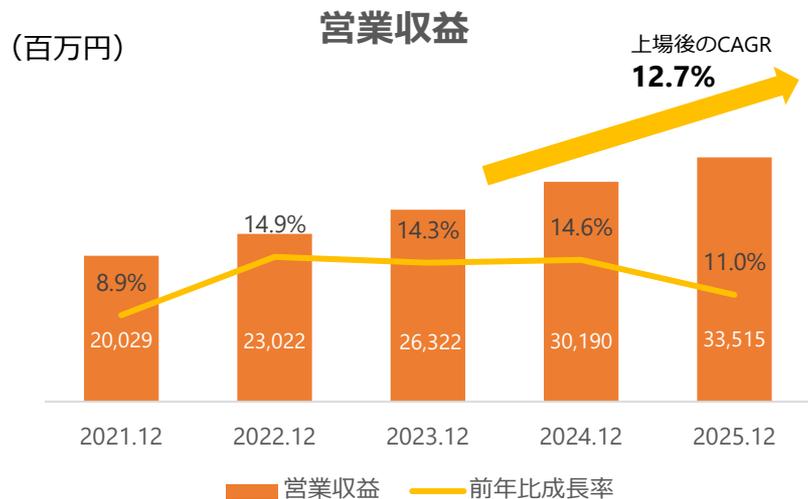
**連結業績実績**

# 2025年12月期 ハイライト（前期比・予想比）

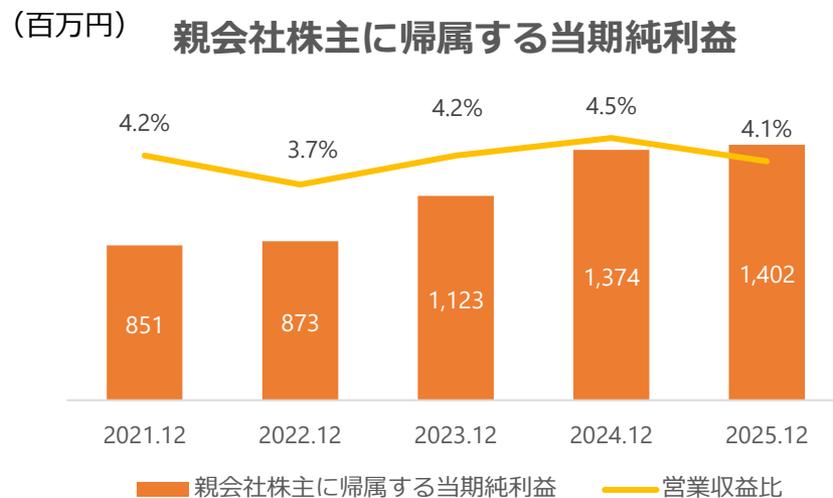
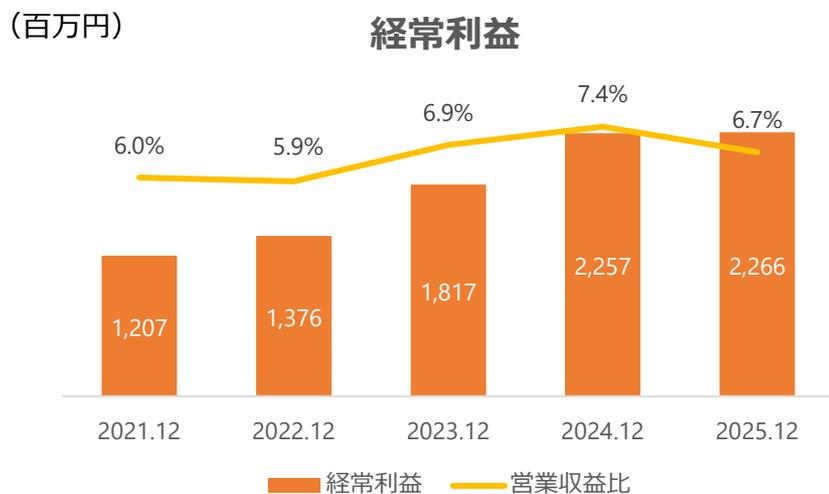
[百万円]	2024年12月期 実績		2025年12月期 予想		2025年12月期 実績		前期比		予想比
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率	達成率
営業収益	30,190		<b>33,300</b>		<b>33,515</b>		<b>+3,325</b>	<b>+11.0%</b>	100.6%
営業利益	2,243	7.4%	<b>2,500</b>	<b>7.5%</b>	<b>2,304</b>	<b>6.8%</b>	<b>+61</b>	<b>+2.7%</b>	92.2%
経常利益	2,257	7.4%	<b>2,500</b>	<b>7.5%</b>	<b>2,266</b>	<b>6.7%</b>	<b>+8</b>	<b>+0.3%</b>	90.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,374	4.5%	<b>1,500</b>	<b>4.5%</b>	<b>1,402</b>	<b>4.1%</b>	<b>+27</b>	<b>+2.0%</b>	93.4%
1株当たり 当期純利益 [円]	57. <sup>47</sup>		<b>62.<sup>24</sup></b>		<b>58.<sup>18</sup></b>				
配当金 [円]	11. <sup>00</sup>		<b>12.<sup>00</sup></b>		<b>13.<sup>00</sup></b> (予定)		<b>+2.<sup>00</sup></b>		

※「1株当たり当期純利益」「配当金額」につきましては、  
2025年10月1日付の株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

# 業績ハイライト（通期）



※年平均成長率（CAGR）： $(N\text{年度の数値} \div \text{初年度の数値})^{1/(N-1)} - 1$



# 2025年12月期 損益状況 | 営業収益増減要因分析

[百万円]	2024年12月期実績	2025年12月期実績	前期比	
	金額	金額	増減額	増減率
<b>営業収益</b>	30,190	<b>33,515</b>	<b>+3,325</b>	<b>+11.0%</b>

## (物流事業)

## (その他)



- **事業拡大による成長**

- 新規拠点開設による増収
- 前期稼働、既存業務拡大による増収

- **生活物資の消費が堅調に推移**

- 取扱量の増加および商品単価の上昇

- 自動車整備業の増収
- 保険代理店業の増収
- Jobs外販による増収

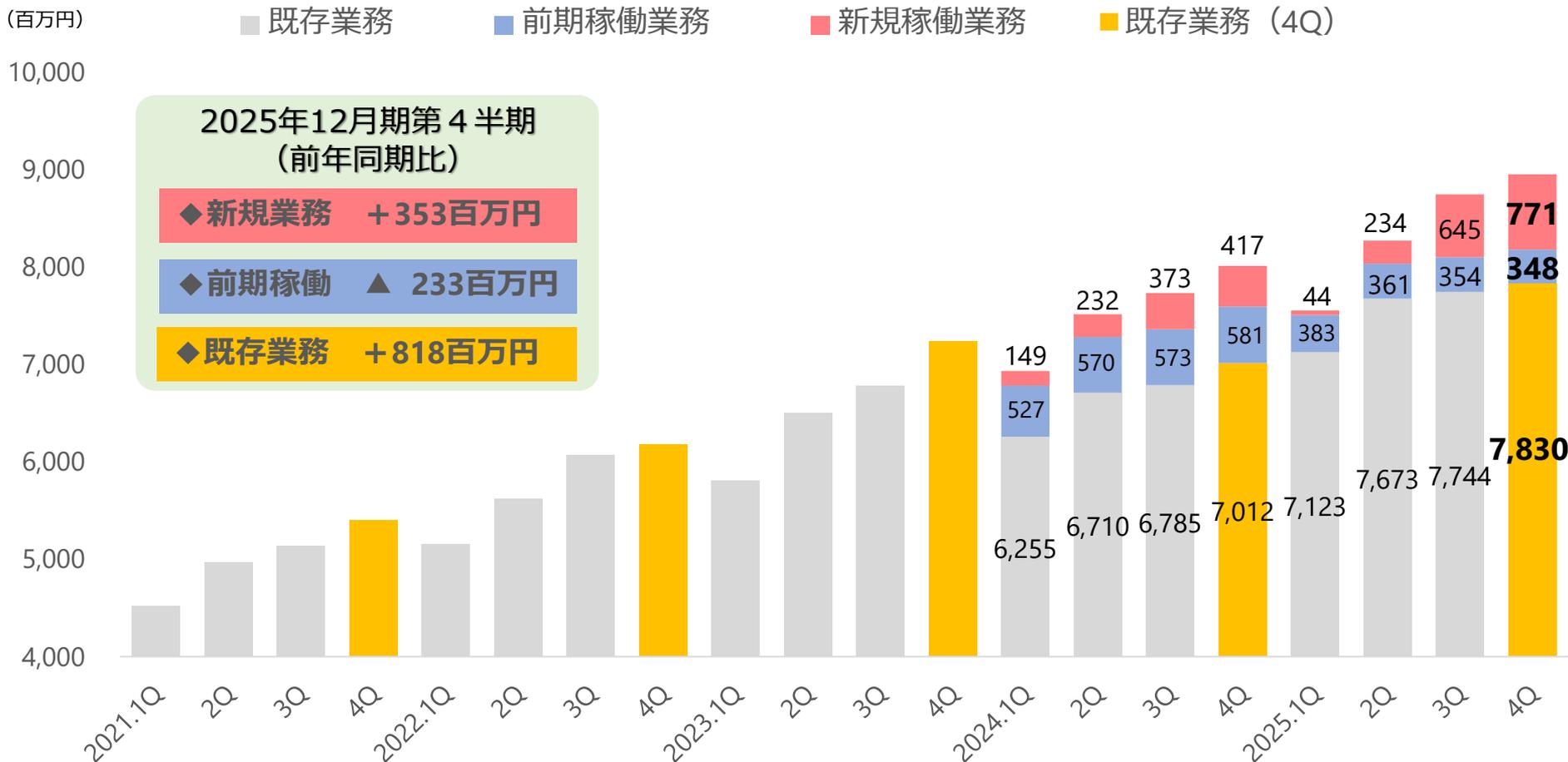
2024年12月期

2025年12月期

# 営業収益の四半期推移（新規・前期・既存）

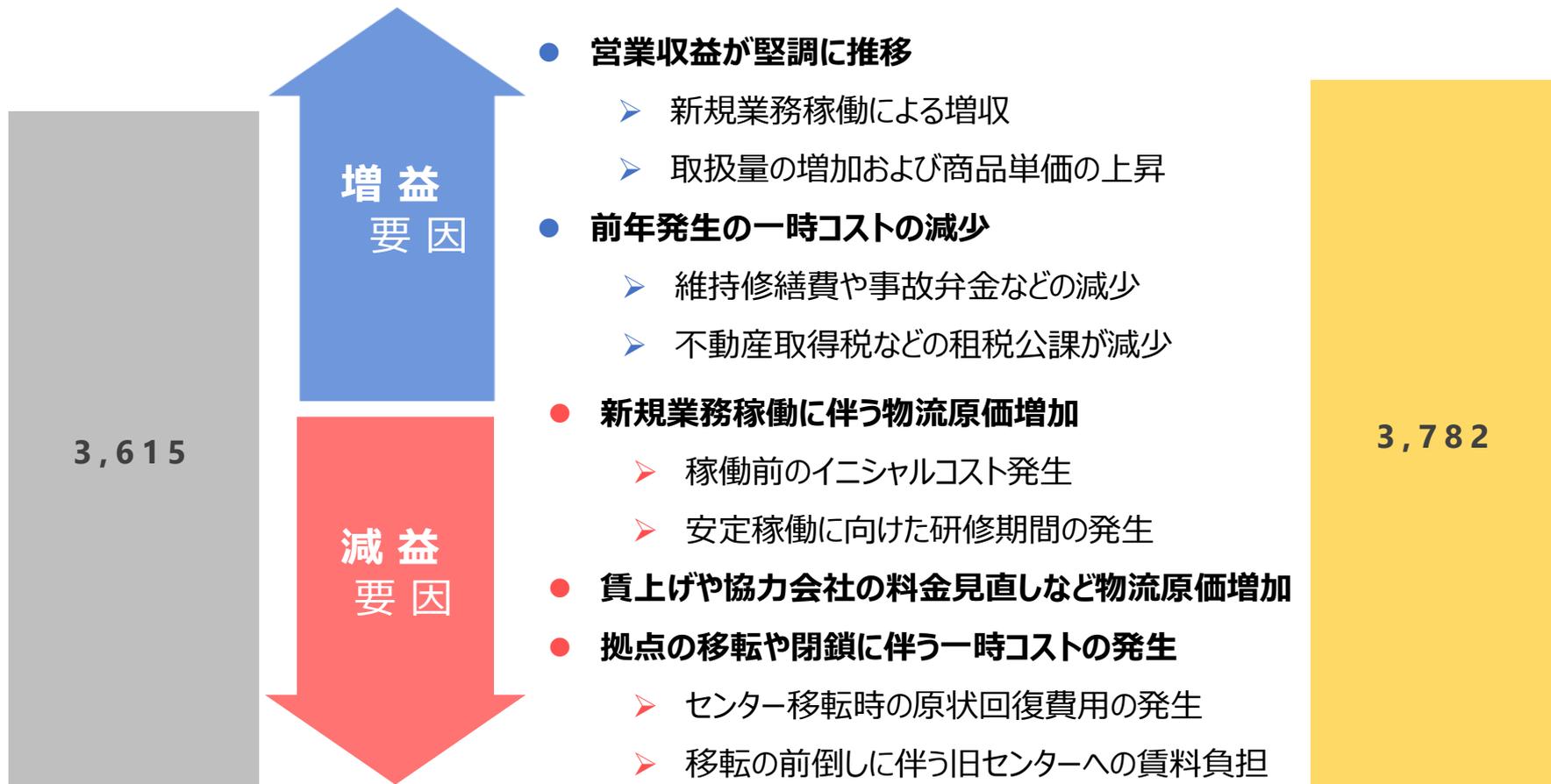
物流基盤の拡大、既存顧客のシェアアップの効果により前年同期比で増収

新規顧客からの業務受託、既存顧客の業務拡大によって、新規業務で大きく増収



# 2025年12月期 損益状況 | 営業総利益増減要因分析

[百万円]	2024年12月期実績		2025年12月期実績		前期比	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率
<b>営業総利益</b>	3,615	11.9%	<b>3,782</b>	<b>11.2%</b>	<b>+167</b>	<b>+4.6%</b>

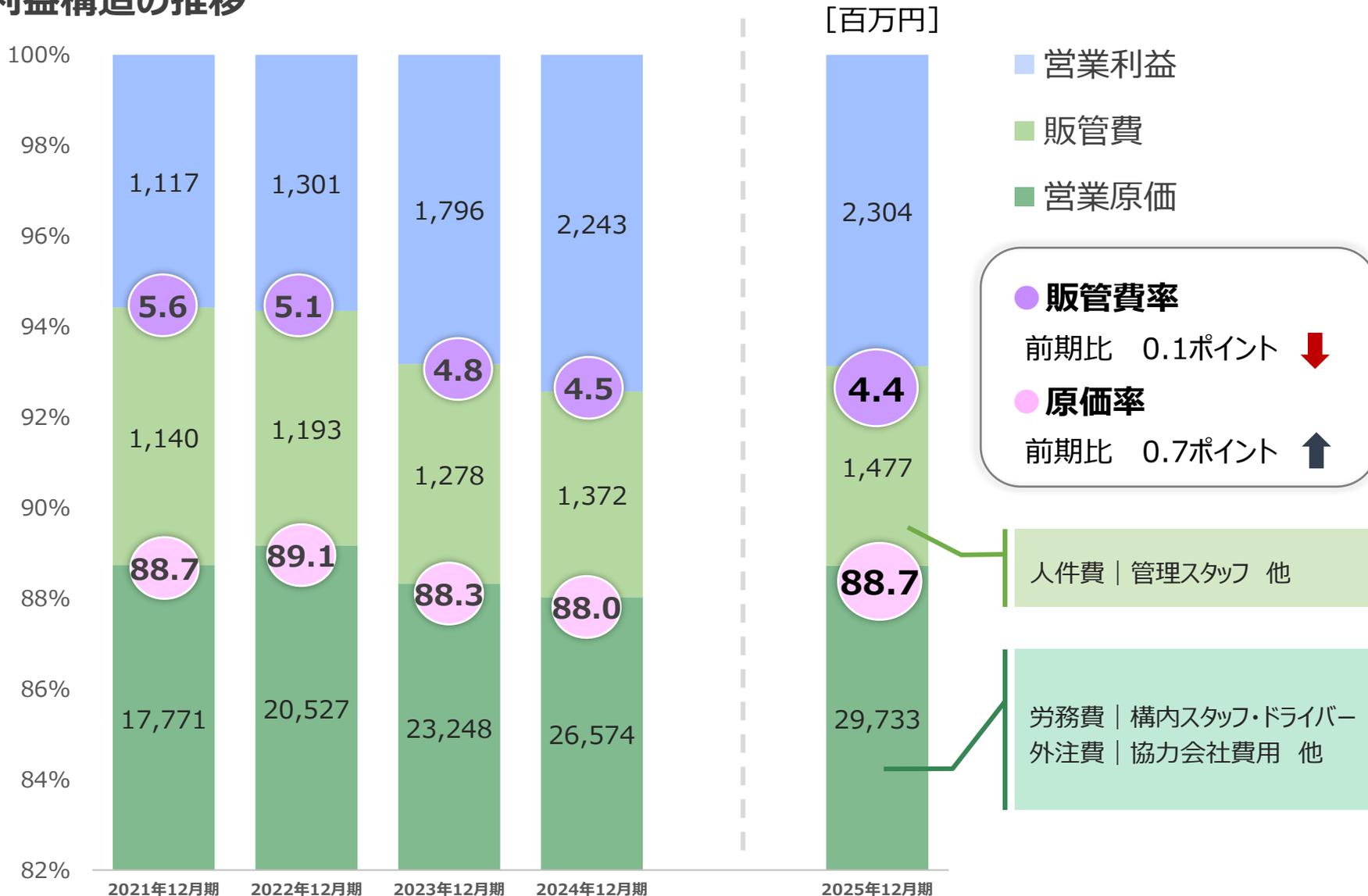


2024年12月期

2025年12月期

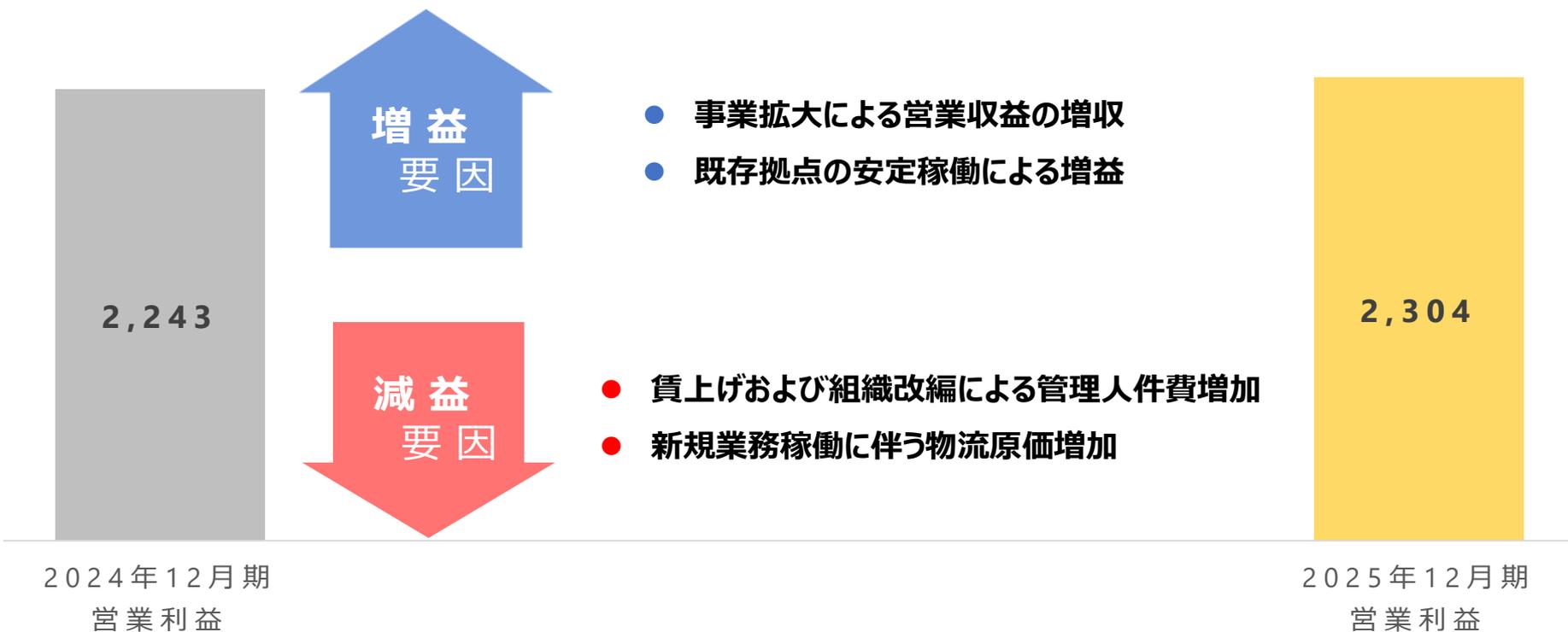
# 2025年12月期 損益状況 | 利益構造

## 利益構造の推移



# 2025年12月期 損益状況 | 営業利益増減要因分析

[百万円]	2024年12月期実績		2025年12月期実績		前期比	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率
<b>営業利益</b>	2,243	7.4%	<b>2,304</b>	<b>6.8%</b>	<b>+61</b>	<b>+2.7%</b>
<b>経常利益</b>	2,257	7.4%	2,266	6.7%	+8	+0.3%
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	1,374	4.5%	1,402	4.1%	+27	+2.0%



## 予想を下回った要因について

### 【通期（1月～12月）】

[百万円]	予想		実績		予想比	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	達成率
<b>営業利益</b>	2,500	7.5%	<b>2,304</b>	<b>6.8%</b>	<b>-195</b>	<b>92.2%</b>

#### 通期

- ・全国14拠点において新たに物流センターを開設したことによる、初期投資や立ち上げに伴う関連費用が増加
- ・Jobsを活用した原価管理の徹底や、既存拠点の稼働率向上により、当初は予想を上回るペースで進捗

#### 下半期

- ・東海SCMセンターの移転に伴い、一時的なコストが発生  
 ➔ 営業原価が想定を上回る結果に

 **通期の営業利益 予想比195百万円下回る**

## 東海SCMセンターの移転・概要

### ◎ 移転の概要（2025年9月）

- ・既存の食品専用SCMセンターを、当社初となる食品・日用雑貨を一体で取り扱う**ハイブリッド型の大規模物流センター**へ移転・拡張
- ・**食品・日用雑貨双方の物流センター運営ノウハウを有する**当社だからこそ可能な取り組み

### ◎ 取り組みの狙いと特徴

- ・お客様との協働により、複数カテゴリーを一体で支える新たな物流モデルに挑戦
- ・将来的な物量拡大やサービス高度化を見据えた**先行投資型の拠点**として、中長期的な収益性・競争優位性の向上を目指す

### ◎ 2025年度業績への影響（一時的要因）

- ・移転に伴う旧センターへの賃料負担や原状回復費用などイニシャルコストが発生
- ・期首計画で利益貢献を見込んでいたが、立ち上げ過程でランニングコストが先行して発生  
→計220百万円の悪化

### ◎ 中長期的な価値創出

- ・本件は短期的には利益に影響したものの、中長期の成長を見据えた戦略的投資であり、今後の収益回復・拡大を目指す

# 営業利益率の四半期推移

## 営業利益率向上の取り組み

- 「Jobs」に蓄積されたデータを分析し、予測される物量に合わせ、原価コントロールを徹底
- 物流資源の有効活用（既存拠点での新規業務開始）

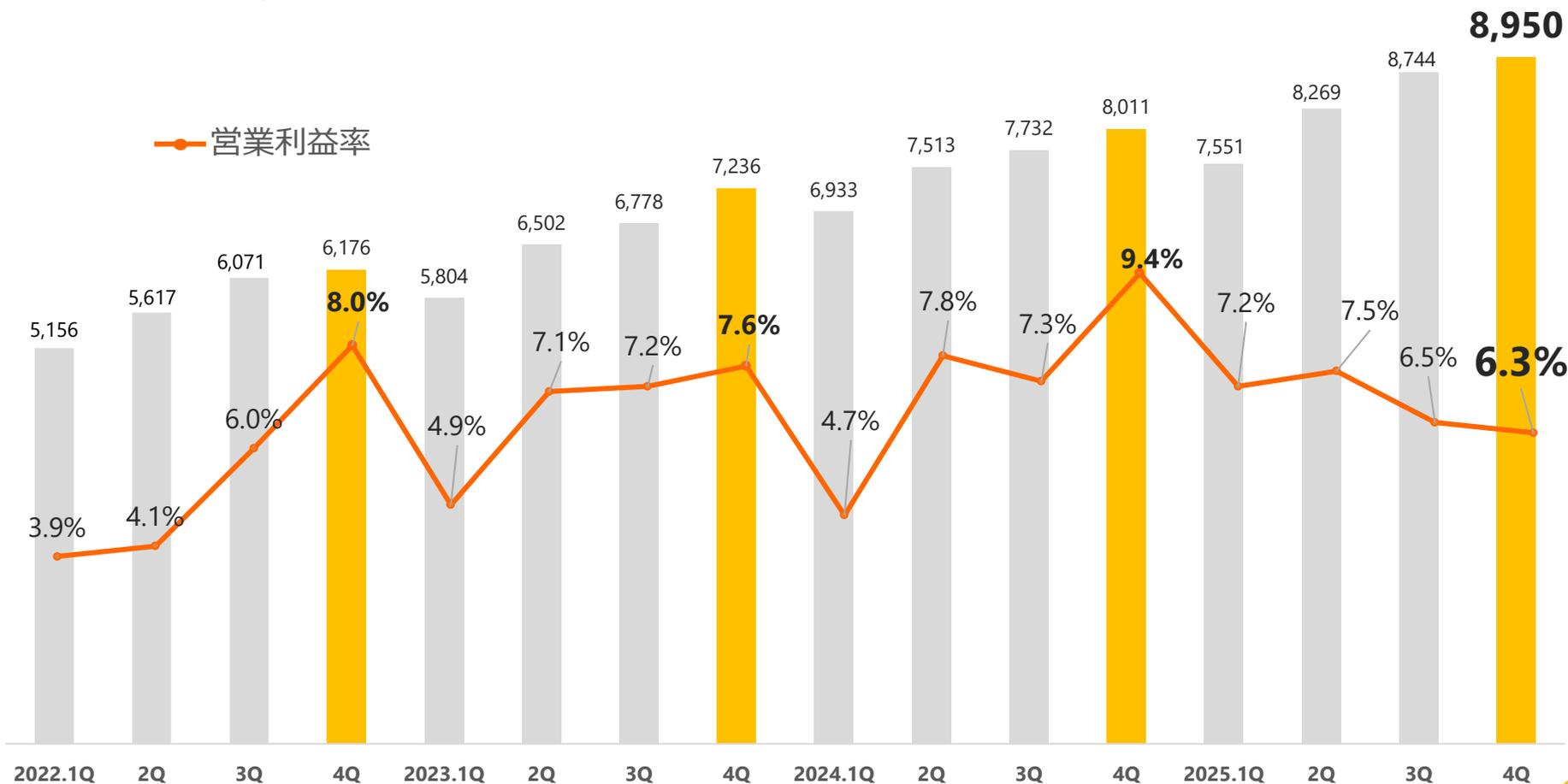
2025年12月期第4四半期 営業利益率:6.3% 例年に比べて大きく低下

- 東海SCMセンター移転に伴う原状回復費用等の一時コストが発生
- 拠点の拡大や雑貨業務の稼働により、安定稼働に向けた人材確保や業務習熟に時間を要し、作業コストが増加。新規業務で利益率を押し下げた。

(百万円)

■ 営業収益

● 営業利益率



# 2025年12月期 財務状況（前期比）

[百万円]	2024年12月期末		2025年12月期末		前期比		主な増減要因
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
流動資産	8,676	47.6%	<b>9,145</b>	45.1%	<b>+468</b>	<b>+5.4%</b>	・営業未収入金 <b>+340</b>
固定資産	9,546	52.3%	<b>11,121</b>	54.8%	<b>+1,574</b>	<b>+16.4%</b>	・土地 <b>+1,298</b> ・建物及び構築物 <b>+447</b> ・リース資産 <b>+255</b> ・建設仮勘定 $\Delta 378$
資産合計	18,222	100.0%	<b>20,266</b>	100.0%	<b>+2,043</b>	<b>+11.2%</b>	
流動負債	6,467	35.4%	<b>6,187</b>	30.5%	$\Delta 279$	$\Delta 4.3%$	・営業未払金 <b>+294</b> ・短期借入金 $\Delta 500$ ・未払法人税等 $\Delta 157$
固定負債	4,256	23.3%	<b>5,416</b>	26.7%	<b>+1,159</b>	<b>+27.2%</b>	・長期借入金 <b>+846</b> ・リース債務 <b>+259</b>
負債合計	10,724	58.8%	<b>11,604</b>	57.2%	<b>+880</b>	<b>+8.2%</b>	
純資産合計	7,498	41.1%	<b>8,662</b>	42.7%	<b>+1,163</b>	<b>+15.5%</b>	・利益剰余金 <b>+1,028</b>
負債・純資産合計	18,222	100.0%	<b>20,266</b>	100.0%	<b>+2,043</b>	<b>+11.2%</b>	
自己資本比率	38.9%		<b>40.1%</b>		<b>+1.2pt</b>		

※自己資本比率は非支配株主持分を除いて算出

# 2025年12月期 キャッシュ・フロー状況

[百万円]

業務拡大による収益増  
業務合理化による利益増

事業規模拡大  
に伴う投資

安定した財務バランス  
の為の支出

- 税金等調整前当期純利益 +2,269
- 減価償却費 +758
- 法人税等の支払額 △867
- 売上債権の増加 △340

↑ 2,213

- 有形固定資産の取得 △2,023

↓ 2,110

- 長期借入金による収入 +1,900
- 長期借入金の返済 △907
- 短期借入による純減額 △500
- 配当金の支払 △373
- ファイナンス・リース債務返済 △335

↓ 269

4,774

前期比  
△166

4,607

2024年12月期末  
現金及び現金同等物

営業活動による  
キャッシュ・フロー

投資活動による  
キャッシュ・フロー

財務活動による  
キャッシュ・フロー

2025年12月期末  
現金及び現金同等物

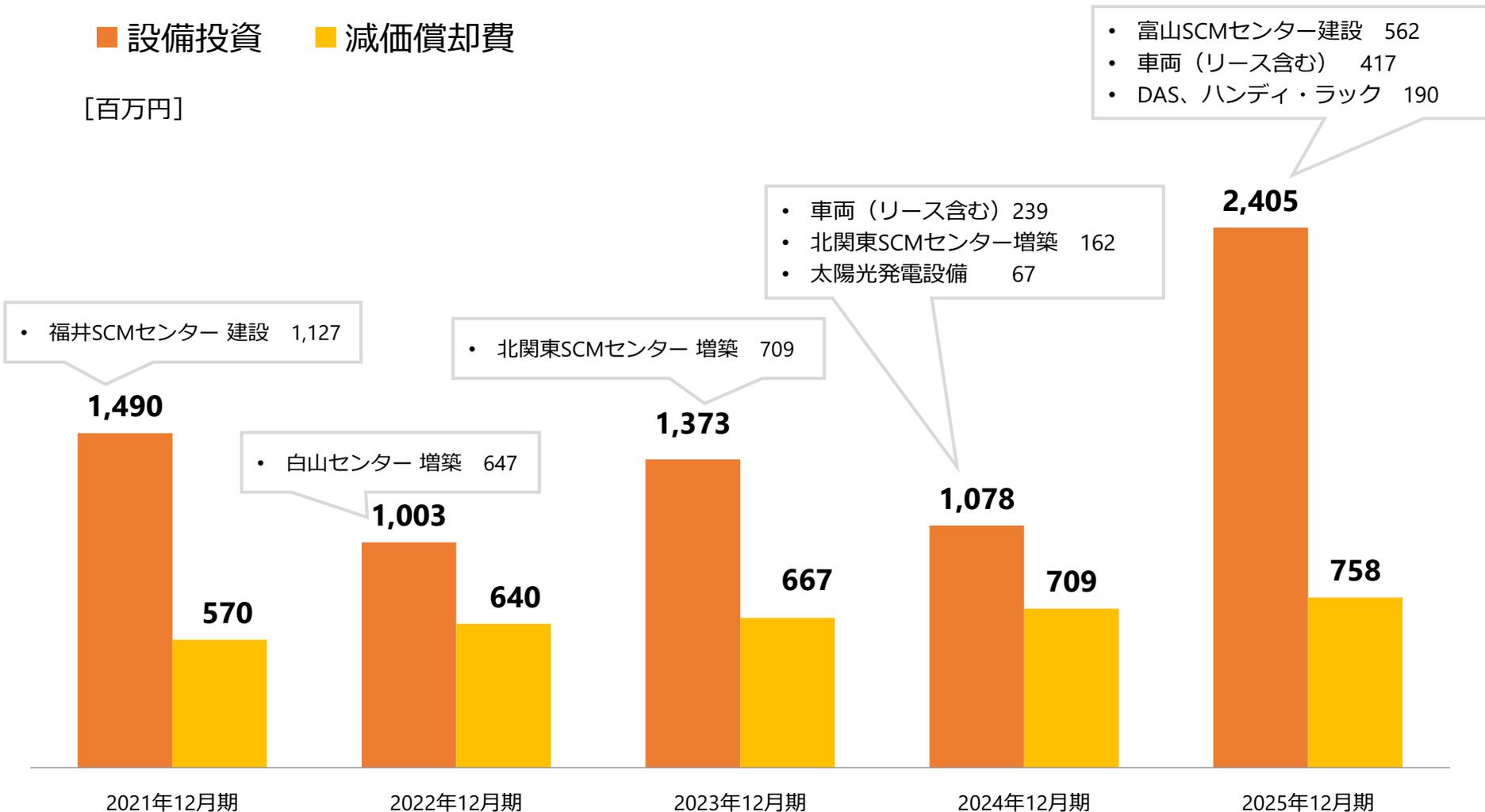
# 設備投資・減価償却費

業務受託拡大に対応した

## 自社物流拠点の新築・増築、計画的な設備投資

■ 設備投資 ■ 減価償却費

[百万円]





REAL LOGISTICS  
**Being Group**

**II**

**Topics**

## ■ 第4四半期（10月～12月）に新規拠点3拠点を開設

センター名	所在地	開設日	取扱商品	グループ会社
小牧LC	愛知県小牧市	10月20日	酒類	 <b>COLLAVICE</b> 株式会社 コラビス
岩槻センター	埼玉県さいたま市	10月31日	日用雑貨	 <b>TOKYO ACTY</b> 株式会社 東京アクティ
金沢TTC	石川県金沢市	11月3日	食品	 <b>ACTY</b> 株式会社 アクティ

● 2025年12月期末時点 拠点数累計 ⇒ **71拠点**

(2025年12月期 新規拠点：14拠点 閉鎖：3拠点 移転：1拠点)

## ■ 2026年1月 新規拠点2拠点を開設 和歌山県に初進出

センター名	所在地	開設日	取扱商品	グループ会社
松阪TC	三重県松阪市	1月5日	食品・酒類・日用雑貨	 <b>COLLAVICE</b> 株式会社 コラビス
海南TC	和歌山県海南市	1月5日	食品・酒類・日用雑貨	 <b>COLLAVICE</b> 株式会社 コラビス

## ■ 2025年12月期 新規拠点一覧

### ● 第1四半期

センター名	開設日	取扱商品
野田センター	3月1日	食品・酒類
金沢鞍月センター	3月24日	医薬品

### ● 第2四半期

センター名	開設日	取扱商品
富山SCMセンター	4月11日	食品・日用雑貨
金沢海浜センター	4月22日	食品・酒類
三重低温センター	6月4日	食品
富谷DC	6月17日	食品
常総DC	6月17日	食品
芳賀DC	6月17日	食品
伊勢崎DC	6月17日	食品

### ● 第3四半期

センター名	開設日	取扱商品
厚木猿ヶ島センター	8月2日	日用雑貨
福島DC	9月16日	食品

### ● 第4四半期

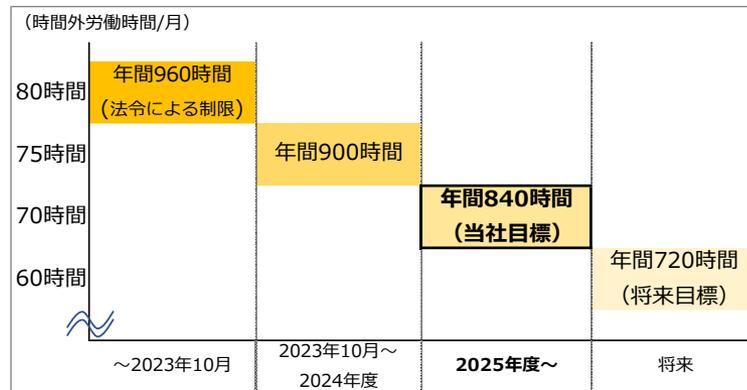
センター名	開設日	取扱商品
小牧LC	10月20日	酒類
岩槻センター	10月31日	日用雑貨
金沢TTC	11月3日	食品

# Topic 2 「2024年問題」への対応

## ■ 2025年度より時間外労働時間 月間70時間でオペレーションを開始

- ・2019年より先行して対応
- ・業務の見直しを行い、問題なく業務遂行ができることを確認しながら、段階的に時間外労働時間の削減を図る

⇒**将来的に月間60時間以内を目指す**



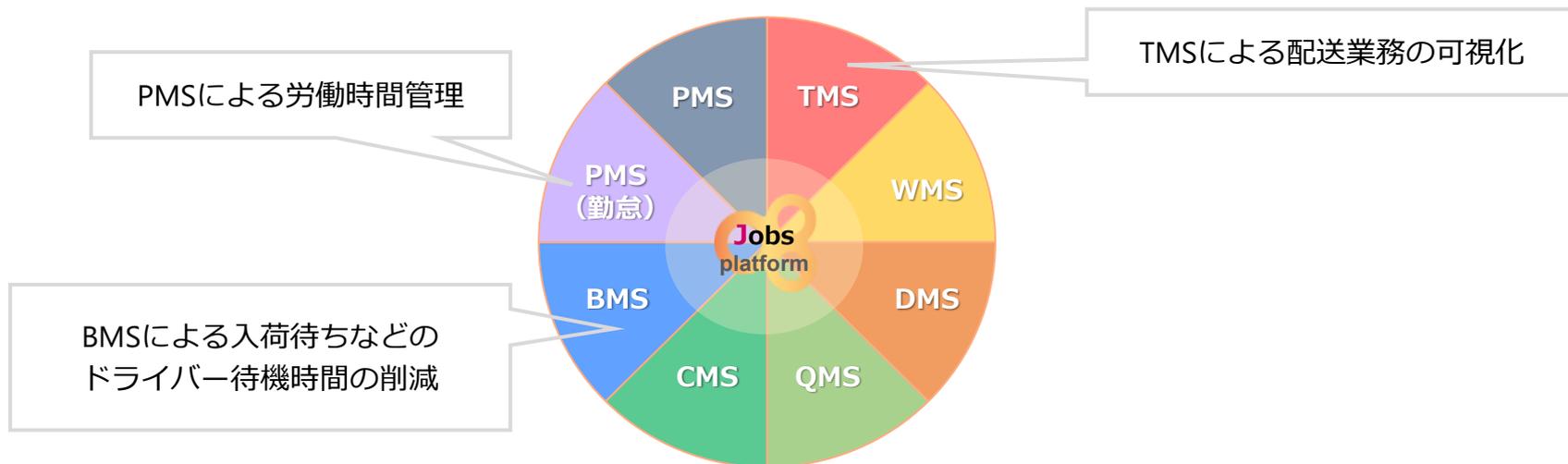
＜＜対応状況＞＞

☑ 2024年度：時間外労働時間を月間75時間に設定

→労働時間の削減に伴い、賃金が減少しないようにベースアップも実施

● 2025年度：月間70時間を目標にオペレーションを開始

## ■ 物流総合システム「Jobs」による物流DX化・見える化





REAL LOGISTICS  
Being Group

**Ⅲ**

**2026年12月期**

**連結業績予想**

## 成長

営業収益10%成長の継続

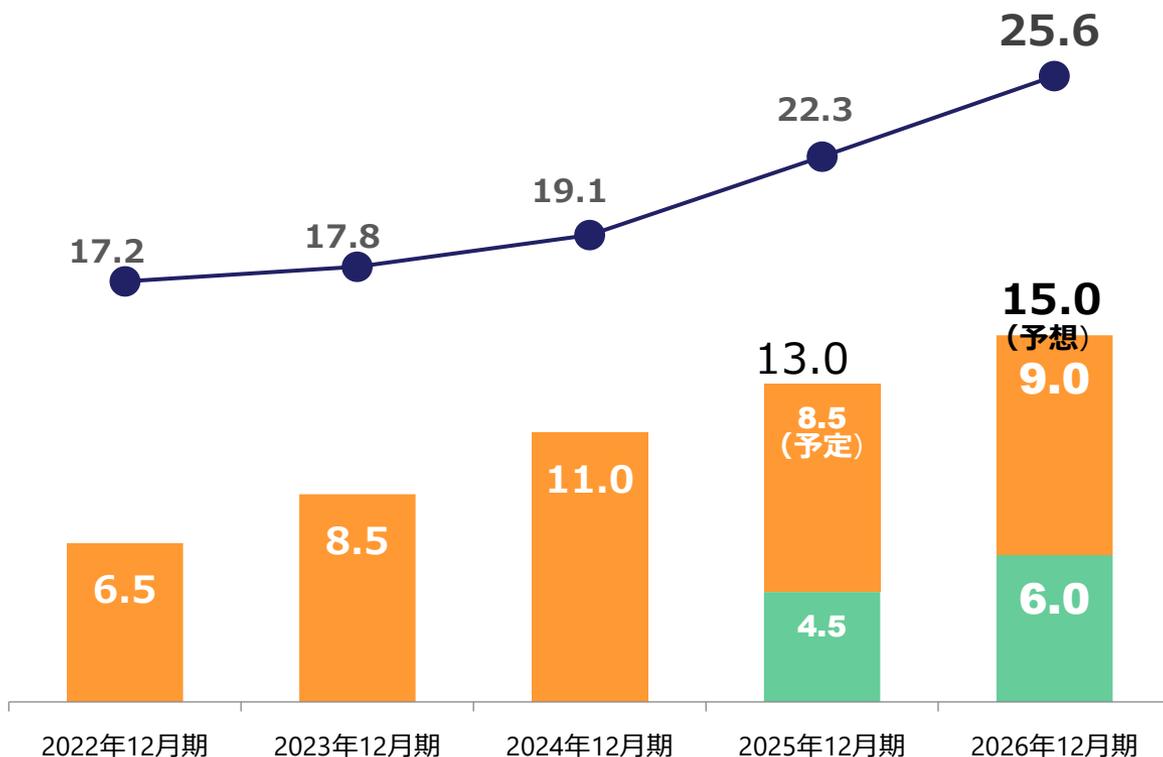
## 投資

成長を支える人財の確保・定着を目的として、  
労働環境改善に2億円の投資を実施

[百万円]	2025年12月期 実績		2026年12月期 中間期予想		2026年12月期 予想		前期比	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率
営業収益	33,515		17,800		<b>36,870</b>		+3,354	+10.0%
営業利益	2,304	6.8%	1,020	5.7%	<b>2,400</b>	<b>6.5%</b>	+95	+4.1%
経常利益	2,266	6.7%	1,000	5.6%	<b>2,350</b>	<b>6.3%</b>	+83	+3.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,402	4.1%	590	3.3%	<b>1,410</b>	<b>3.8%</b>	+7	+0.5%
1株当たり 当期純利益 [円]	58. <sup>18</sup>		<b>24.<sup>48</sup></b>		<b>58.<sup>50</sup></b>			
配当金額 (1株:円)	13. <sup>00</sup>		6. <sup>00</sup>		<b>15.<sup>00</sup></b>		<b>+2.<sup>00</sup></b>	

2026年12月期の配当金額（予想）：1株当たり15.0円  
 中間配当：6.0円 期末配当：9.0円

■ 中間配当（円） ■ 期末配当（円） ● 配当性向（%）



※ 配当金額につきましては、2025年10月1日付の株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

配当基本方針

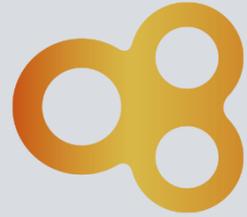
株主還元を経営上の重要な課題と認識し、業績や事業拡大に向けた資金需要に対応した内部留保の確保を総合的に勘案

配当性向やDOEを考慮しながら、長期的に安定した配当を継続

内部留保資金

借入金返済等の財務体質の強化に充てる  
 戦略的な成長投資に充当する

企業価値向上に努める



REAL LOGISTICS  
**Being Group**

# **Appendix**

# 会社概要 1

社名	株式会社ビーイングホールディングス 【英文名】 BEING HOLDINGS CO.,LTD.
本社	金沢本社   石川県金沢市専光寺町レ3-18 TEL : 076-268-1110 / FAX : 076-268-6631 東京本社   東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング7階 TEL : 03-6259-1830 / FAX : 03-6259-1831
代表者	代表取締役社長 喜多 甚一 (キタ シゲカズ)
設立	1986年9月17日
資本金	696,121千円 (2025年12月末時点)
従業員数	連結1,012名 (1,528名) (2025年12月末現在) 従業員数は就業人員 (当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。) であり、臨時雇用者数 (パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。) は、最近1年間の平均人員を ( ) 外数で記載
事業内容	グループ会社の経営管理 ビーインググループ   物流事業   物流センター運営、コンサルティング業務 その他   旅客事業等

## グループ企業

	名称	事業内容	資本金	議決権の所有割合
①	(株)アクティー	物流事業	80百万円	100.0%
②	(株)福井アクティー		30百万円	100.0%
③	(株)東京アクティー		80百万円	100.0%
④	(株)コラビス		80百万円	100.0%
⑤	(株)A 2 ロジ		5百万円	51.0%
⑥	(株)横浜 L S P		30百万円	100.0%
⑦	(株)オリエンタル	旅客事業	10百万円	100.0%
⑧	(株)G a p p a	システム開発	5百万円	100.0%
⑨	(株)ベプロ	保険代理業	3百万円	100.0%
⑩	(株)田川自動車	自動車整備業	6百万円	100.0%
⑪	北陸物流効率化事業協同組合	燃料販売業	0百万円	35.7% (28.5%) ※1 ※2

※1 議決権の所有割合の（）内は、間接所有割合で内数

※2 議決権の所有割合は100分の50以下であるが、実質的に支配しているため子会社としたもの



# 特長 1 生活物資に特化



生活物資に特化することになった**きっかけ**

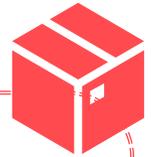
豪雪時に生活物資を届ける社員の姿に仕事の価値を感じ、生活物資に特化することを決めた

## ●取扱商品

3温度帯（常温・冷蔵・冷凍）の食品、医薬品、化粧品、日用品

## ●配送先

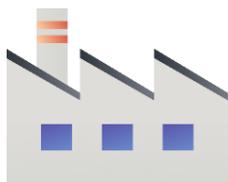
D g S（ドラッグストア）、C V S（コンビニエンスストア）  
S M（スーパーマーケット）



- 景気に左右されず、**取扱量が安定**している
- 取扱商品数の**増加**やエリアの**拡大**が**収益増**につながる
- 需要が予想しやすく、**コスト削減**や**効率化**がしやすい

### 運ばない・触れない 物流システム

生産地



SCMセンター

消費地近くに立地し安定供給

メーカー、中間流通業者、  
小売業者の  
倉庫を1つに集約



消費地（店舗）



### 従来の物流

運ぶ  
コスト



メーカー  
物流センター



運ぶ  
コスト



中間流通業  
物流センター（卸売）



従来の物流

- ・センター間の輸送が必要
- ・会社別にセンターを所有
- ・各センターで入出荷作業が発生

運ぶ  
コスト



小売業  
物流センター



運ぶ  
コスト



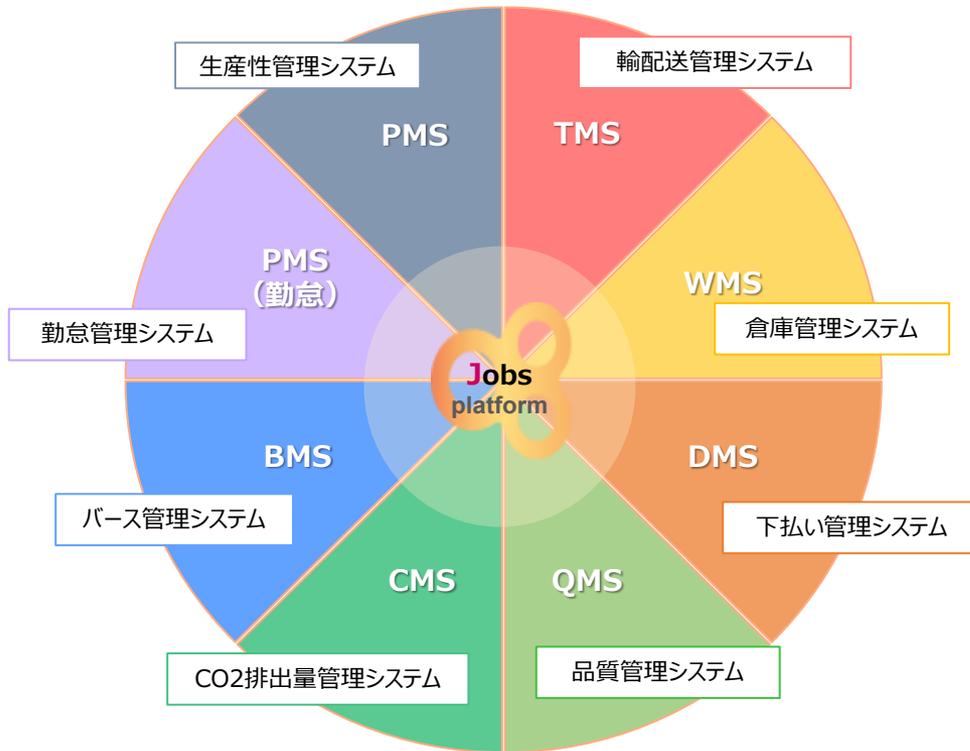
- ・ サプライチェーン全体の合理化
- ・ 輸送頻度の低減



- ・ サステナブルな社会への貢献
- ・ 物流2024年問題への対応

# 特長3 見える物流 | Jobs

## Jobs (6つのシステム)



### Jobsのコンセプト「情報共有」

- 見える化 (プル型) → 興味のある情報を詳細に提供
- 見える化 (プッシュ型) → 興味を持っていただく情報の提供

※Jobsは当社のシステムだけでなく、顧客システムとの連携が可能となる前提で開発しております。



この両方の情報を共有することで、**顧客の抱える問題の改善およびコストカットを推進**

# 特長4 無いものは自分たちでつくる「現場力」

現場に合ったデバイスの自社開発・特注により、工数の削減、作業の省人化、安全性の向上を追求

## 省人化・省スペース化

### オリコン洗浄機

- オリコンをカゴ車に積んだ状態で洗浄  
→ 限られたスペースでも設置可能



### お化けリフト

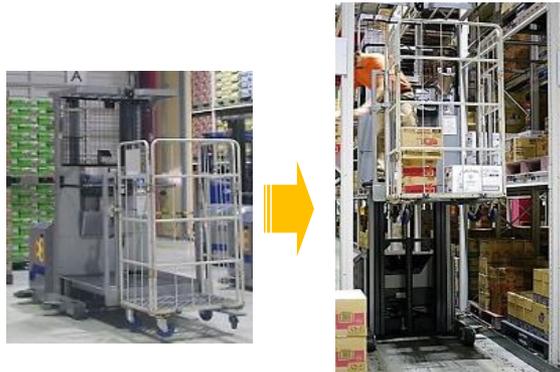
- カゴ車を最大8台（人の4倍）搬送できる



## 作業工程の合理化

### カゴ車用リフトアタッチメント

- 積み替えを省略し、作業工程を合理化  
ピッキングした荷姿のまま出荷できる



### ピッキング用台車

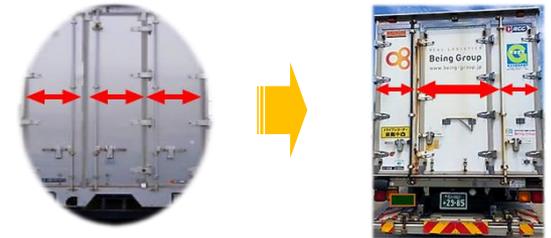
- 台車を外し、  
積み替えなしで  
そのまま店舗へ納品



## 配送の高品質化・安全性の向上

### 配送トラック

荷台3枚扉の中央の扉を大きく改良



垂直ゲート（3点スイッチ）



### 店舗カルテ

- 事前に配送先となる  
全ての店舗を視察、  
「店舗カルテ」を制作



あらゆる物流業務の合理化を自ら考え、実現する「現場力」

## 1 6機能すべてを自社で担うリアル・ロジスティクス・カンパニー

- ・輸送、保管、包装、荷役、流通加工、更に**情報システムを自社開発**し、一元化する「**3PL事業**」が主軸。
- ・さらに3PL事業をプロデュースし、サプライチェーン全体を管理する「**4PL事業**」のグループ連携を図り同業他社へ展開。

## 2 小売・卸売事業者向け3PL事業に注力

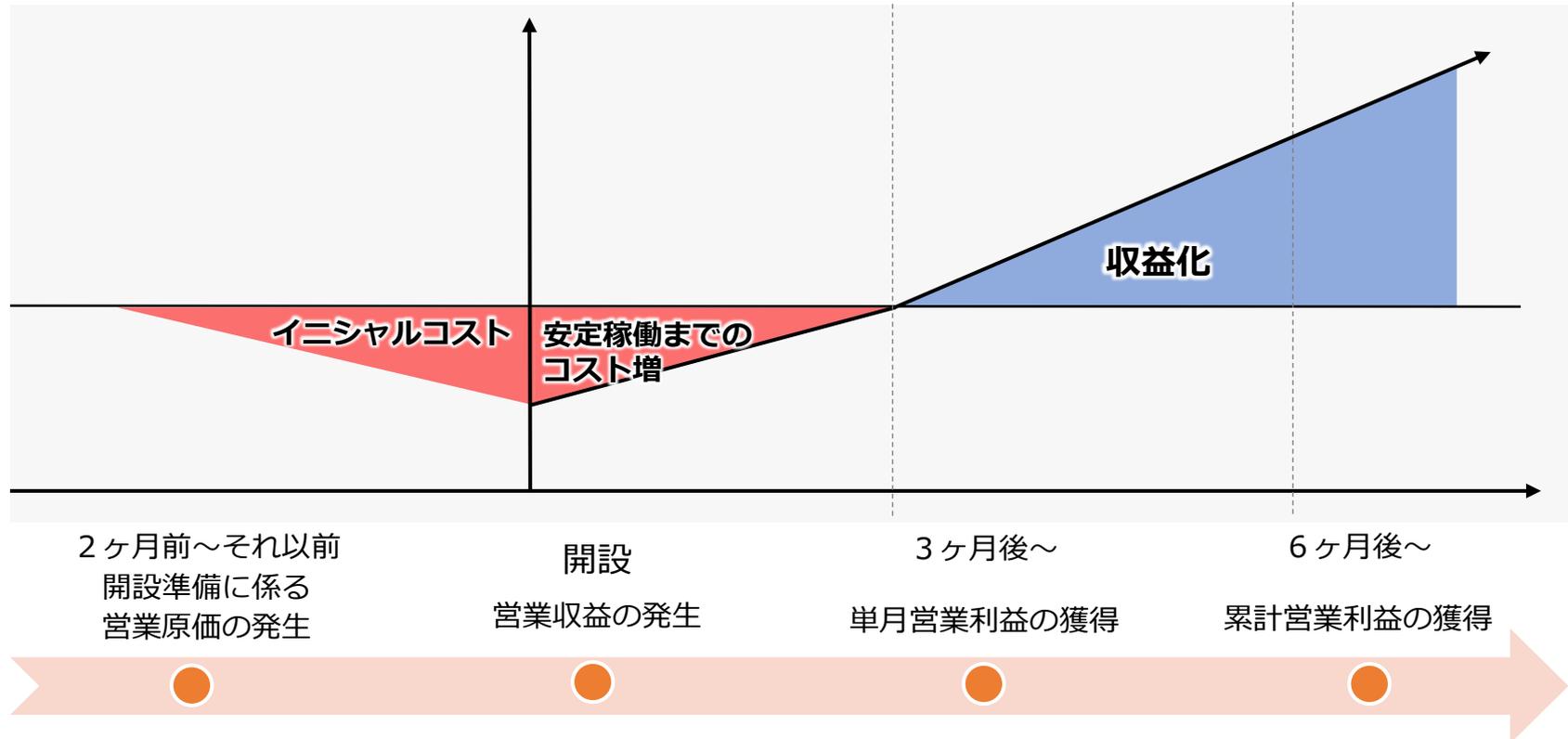
- ・取り扱う商品は**生活物資に特化**。
- ・3温度帯(常温・冷蔵・冷凍)の食品、医薬品、化粧品、日用品の**小口物流に強み**を持ち、卸売企業及びコンビニエンスストア、スーパーマーケット、ドラッグストアの物流センター運営を受託。

## 3 「運ばない物流<sup>®</sup>」「見える(プル型)・見せる(プッシュ型)物流」でロジスティクスの合理化・全体最適化を実現

- ・メーカー、卸売、小売間で実施する拠点間配送、在庫管理、検品などを拠点物流センターに集約。
- ・自社開発の管理システム「**Jobs**」を駆使して収集した情報を顧客と共有。
- ・構内、配送業務の徹底した合理化により全体最適化を実現。

# 新規拠点開設イメージ（一例）

## 開設準備～拠点の収益化まで



開設費用（営業原価）	業務開始	単月での収支状況正常化	インニシャルコストの回収
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物流倉庫の賃貸</li> <li>・ 物流機器の購入（オリコン、カゴ車等）</li> <li>・ 輸送機器の購入（トラック等）</li> <li>・ システムの導入費用</li> <li>・ 事前雇用（トレーニング費用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拠点特有の作業内容の微調整</li> <li>・ 顧客要求事項の変更対応</li> <li>・ この時点では、生産性よりも確実性を優先</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確実性に加え、生産性も向上し、利益体質に転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収益化によりインニシャルコストを徐々に回収</li> <li>・ 累計でも利益化</li> </ul>

# 損益状況

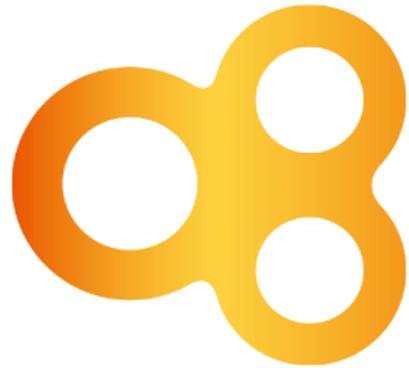
[百万円]	2020年12月期		2021年12月期		2022年12月期		2023年12月期		2024年12月期		2025年12月期	
		構成比										
営業収益	<b>18,390</b>	100.0%	<b>20,029</b>	100.0%	<b>23,022</b>	100.0%	<b>26,322</b>	100.0%	<b>30,190</b>	100.0%	<b>33,515</b>	100.0%
営業原価	<b>16,567</b>	90.0%	<b>17,771</b>	88.7%	<b>20,527</b>	89.1%	<b>23,248</b>	88.3%	<b>26,574</b>	88.0%	<b>29,733</b>	88.7%
営業総利益	<b>1,822</b>	9.9%	<b>2,258</b>	11.2%	<b>2,494</b>	10.8%	<b>3,074</b>	11.6%	<b>3,615</b>	11.9%	<b>3,782</b>	11.2%
販管費	<b>1,067</b>	5.8%	<b>1,140</b>	5.6%	<b>1,193</b>	5.1%	<b>1,278</b>	4.8%	<b>1,372</b>	4.5%	<b>1,477</b>	4.4%
営業利益	<b>755</b>	4.1%	<b>1,117</b>	5.5%	<b>1,301</b>	5.6%	<b>1,796</b>	6.8%	<b>2,243</b>	7.4%	<b>2,304</b>	6.8%
営業外収益	<b>78</b>	0.4%	<b>125</b>	0.6%	<b>134</b>	0.5%	<b>52</b>	0.1%	<b>66</b>	0.2%	<b>86</b>	0.2%
営業外費用	<b>37</b>	0.2%	<b>35</b>	0.1%	<b>59</b>	0.2%	<b>30</b>	0.1%	<b>51</b>	0.1%	<b>125</b>	0.3%
経常利益	<b>795</b>	4.3%	<b>1,207</b>	6.0%	<b>1,376</b>	5.9%	<b>1,817</b>	6.9%	<b>2,257</b>	7.4%	<b>2,266</b>	6.7%
特別利益	<b>12</b>	0.0%	<b>6</b>	0.0%	<b>33</b>	0.1%	<b>3</b>	0.0%	<b>8</b>	0.0%	<b>37</b>	0.1%
特別損失	<b>31</b>	0.1%	-	0.0%	<b>0</b>	0.0%	<b>7</b>	0.0%	<b>0</b>	0.0%	<b>34</b>	0.1%
当期純利益	<b>515</b>	2.8%	<b>888</b>	4.4%	<b>937</b>	4.0%	<b>1,243</b>	4.7%	<b>1,520</b>	5.0%	<b>1,579</b>	4.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>470</b>	2.6%	<b>851</b>	4.2%	<b>873</b>	3.7%	<b>1,123</b>	4.2%	<b>1,374</b>	4.5%	<b>1,402</b>	4.1%

# 財務状況

[百万円]	2020年12月期		2021年12月期		2022年12月期		2023年12月期		2024年12月期		2025年12月期	
		構成比										
流動資産	<b>6,978</b>	51.3%	<b>6,617</b>	46.9%	<b>6,711</b>	46.0%	<b>7,651</b>	45.4%	<b>8,676</b>	47.6%	<b>9,145</b>	45.1%
固定資産	<b>6,623</b>	48.6%	<b>7,471</b>	53.0%	<b>7,851</b>	53.9%	<b>9,193</b>	54.5%	<b>9,546</b>	52.3%	<b>11,121</b>	54.8%
資産合計	<b>13,601</b>	100.0%	<b>14,088</b>	100.0%	<b>14,562</b>	100.0%	<b>16,845</b>	100.0%	<b>18,222</b>	100.0%	<b>20,266</b>	100.0%
流動負債	<b>5,005</b>	36.8%	<b>5,111</b>	36.2%	<b>5,861</b>	40.2%	<b>7,634</b>	45.3%	<b>6,467</b>	35.4%	<b>6,187</b>	30.5%
固定負債	<b>5,083</b>	37.3%	<b>4,676</b>	33.1%	<b>3,595</b>	24.6%	<b>3,001</b>	17.8%	<b>4,256</b>	23.3%	<b>5,416</b>	26.7%
負債合計	<b>10,089</b>	74.1%	<b>9,787</b>	69.4%	<b>9,456</b>	64.9%	<b>10,636</b>	63.1%	<b>10,724</b>	58.8%	<b>11,604</b>	57.2%
株主資本	<b>3,338</b>	24.5%	<b>4,119</b>	29.2%	<b>4,891</b>	33.5%	<b>5,888</b>	34.9%	<b>7,071</b>	38.8%	<b>8,100</b>	39.9%
その他の包括利益累計額	<b>38</b>	0.2%	<b>29</b>	0.2%	<b>20</b>	0.1%	<b>28</b>	0.1%	<b>31</b>	0.1%	<b>39</b>	0.1%
非支配株主持分	<b>135</b>	0.9%	<b>151</b>	1.0%	<b>193</b>	1.3%	<b>291</b>	1.7%	<b>395</b>	2.1%	<b>522</b>	2.5%
純資産合計	<b>3,512</b>	25.8%	<b>4,300</b>	30.5%	<b>5,105</b>	35.0%	<b>6,209</b>	36.8%	<b>7,498</b>	41.1%	<b>8,662</b>	42.7%

# キャッシュ・フロー状況

[百万円]	2020年12月期	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期
営業活動による キャッシュ・フロー	1,074	1,540	1,269	1,899	2,466	2,213
投資活動による キャッシュ・フロー	△65	△1,234	△524	△1,598	△767	△2,110
フリー・キャッシュ・ フロー	1,009	306	745	301	1,699	103
財務活動による キャッシュ・フロー	732	△802	△940	161	△974	△269
現金及び現金同等物の 増減額	1,741	△496	△195	462	725	△166
現金及び現金同等物の 期末残高	4,279	3,782	3,587	4,049	4,774	4,607



REAL LOGISTICS

**Being Group**